

2023（令和5）年度
教職課程
自己点検・評価報告書

長崎女子短期大学
幼児教育学科

目次

I 教職課程の現況及び特色	1
II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	
基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	
基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫	
基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	
基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	
基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	
基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携	
III 総合評価	11
IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	11
V 現況基礎データ一覧	12

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名:長崎女子短期大学幼児教育学科
- (2) 所在地:長崎県長崎市弥生町 19-1
- (3) 学生数及び教員数 (令和 5 年 5 月 1 日現在)
 - ①学生数: 教職課程履修 168 名/学科全体 168 名
 - ②教員数: 教職課程科目担当 (教職・教科とも) 10 名/学科全体 12 名

2 特色

長崎女子短期大学は、明治 29 年 (1896 年) に笠原田鶴子が創立した長崎女子学院を始まりとする。昭和 26 年 (1951 年) に学校法人鶴鳴学園に組織変更、昭和 41 年 (1966 年) に鶴鳴女子短期大学が設立、家政科が開設された。昭和 44 年 (1969 年)、長崎女子短期大学に改称され、昭和 48 年 (1973 年) に幼児教育学科が増設されて現在に至る。

本学園の建学の精神「鶴九臯に鳴きて声天に聞こゆ」は、中国の古典「詩経」の小雅・鶴鳴篇の中の一節で、「鶴は、人に知られない山奥の沢辺で鳴いても、その声は遠くまで達する」という意味である。社会の中で人に知られなくても、地味だが現実根ざして誠実に生き、学び続けている人は、必ず人々から高く評価されるようになるということを、本学ホームページに掲載することで、本学園の建学の精神に対する理解が本学生のみならず広く社会に深まるように努めている。

幼児教育学科では、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得でき、50 年間余り、保育者の養成に携わってきている。長崎市内にあって、市内から通学する学生が多いが、近隣の諫早市や大村市から通学する学生もおり、また、学生寮を併設しているため、遠方の島原市、佐世保市、松浦市、島嶼地域の五島市、壱岐市からも進学してきている。保育・幼児教育に携わる保育者養成校として期待される中、卒業生のほとんどが長崎県南部および中部の保育施設に就職しており、概ね高い評価を得ている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

[現状説明]

本学は、建学の精神に基づく教育目標（学訓）として「尽心・創造・実践」を掲げて、本年（令和 5 年）度、全学「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」（以下 DP と略記）として新たな 10 項目を定めた。幼児教育学科においても、全学 DP に従って学科 DP を以下のように設定した（資料 1-1-1）。

①誠実性

勤勉さと真面目さがあり、目標に向けて継続的に取り組み、自分の感情や行動をコントロールできる。

②倫理観

人として守るべき善悪や道理の基準となる考え方が明確で、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

③知識

幼児教育（保育）の職場において、必要とされる基礎的・専門的な知識を身につけている。

④技能

幼児教育（保育）の職場において、必要とされる基礎的・専門的な技能を身につけている。

⑤数量的スキル

情報通信技術を用いて、多様な情報を適切に収集・分析・判断し、情報倫理に則って、効果的に表現・活用ができる。

⑥問題解決力

根拠に基づく論理的思考と豊かな想像力を身につけ、問題の発見と解決に取り組み、新しくより良いものを生み出すことができる。

⑦言語的スキル

言葉の基本的な知識と文章構成力を身につけ、日常生活の中で適切に使いこなすことができる。

⑧コミュニケーションスキル

自分の考えを相手に伝え、筋道を立てて表現し、相手の気持ちを理解して配慮できる。

⑨主体性

積極的に方針や計画を立て、自分の意志や判断に基づいて行動し、その結果に対して責任を負うことができる。

⑩協働性-

多様な人々と相互に理解し合い、協力して課題に取り組み、自分だけでなく他者の能力を発揮させることができる。

学科 DP は、カレッジライフに掲載し、入学後の実習オリエンテーションで学生へ説明することで、学生への周知を図っている。学科における学びについて、理論及び演習の各科目をできるだけ順序よく配置し、その流れをカリキュラム・フローチャートとして図示している（資料 1-1-2）。本年（令和 5 年）度から成績評価にルーブリックを取り入れているので、学生にとっても授業に取り組みやすくなっている（資料 1-1-3）。卒業時には、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方が無理なく取得できるように、カリキュラムを計画している。

〔長所・特色〕

各授業の実施においては、それぞれの内容を精選することによって、学生の個別対応や学修支援の時間を創出している。たとえば、ピアノを弾くことに不安を感じながら入学してくる学生が少なからず存在し、しかも近年増加傾向にあるので、1 年生を対象とした「保育と音楽表現〔初心者クラス〕」を開講している（資料 1-1-4）。受講は任意で、受講の継続についても任意として、ピアノ演奏に対する不安感の解消に努めてきており、一定の成果が上がっている。

〔取り組み上の課題〕

教職課程の目的・目標は、成績評価にルーブリックを取り入れたので、学科教員及び関係職員におおむね共有されていると考えている。課題としては、ルーブリックによる成績評価に対して、学生の意識がまだまだ低いと思われるので、その改善を学科内で検討していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 109
- ・資料 1-1-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 39
- ・資料 1-1-3：長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス
- ・資料 1-1-4：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2022 pp. 16-19

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、幼児教育学科だけが教職課程を有しており、学科専任教員 12 名中 10 名が教職課程の授業科目を担当している。教職課程担当教員 5 名と事務局職員 2 名で構成する教

職課程委員会を設置して、教職課程教育を検討し見直しを行っている。教職課程担当教員による検討案を学科会議で確認した後、教職課程委員会で諮り、教務委員会を経て運営委員会で決定する。このような手順で、教職課程教育全体の見直しと充実を進めている。

教育実習に関する学生指導は、実習の事前指導・事後指導を含めて、教職課程担当専任教員9名が分担して関わっているため、実習先からの要望・助言等を実習の改善に反映させることができている。また、保育施設長を招聘した講演会を1年次から聴講させることで、教育実習に対する学生の意識づけを早い段階から図っている。

学生生活の支援には、少人数編成の担任制度であるチューター制度を設けている(資料1-2-1)。学修上の問題がある、家庭環境に悩みを抱えている、合理的配慮を必要としている等、特別な配慮が必要な学生に対して、定例のチューター面談だけでなく、必要に応じて随時行うことで、チューターだけでなく、学科全教員、事務局職員も含めて、支援を協議しながら対応している。

[長所・特色]

教職課程担当の専任教員が9名という少人数の組織であるため、それぞれの負担が大きい面もあるが、逆に、教員間での意志の疎通は図りやすいと考えられる。

本学は、個別のピアノ練習室を40室以上設けており、授業外で学生が自由にピアノを練習できるように配慮している(資料1-2-2)。体育館には小規模の室内運動に使えるフィットネス・ルームがあり、運動遊びの実践授業に活用している。図書館は、保育・幼児教育の専門書を始め、図鑑や絵本・大型絵本や紙芝居、視聴覚教材などを多数所蔵している。その他、絵本の読み聞かせ等の模擬活動が可能な個室も設けていて、保育学生が実践できる場を提供している。

[取り組み上の課題]

学生が自発的に保育実践を試みることができるような模擬保育室、あるいは、学生が保育教材等を閲覧・使用できるような教職課程専用の資料室がない。しかし、新たに施設を設けることは、小規模短期大学であるため難しい。別の形での環境改善ができないか検討していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：長崎女子短期大学カレッジライフ2023 p.61
- ・資料1-2-2：長崎女子短期大学カレッジガイド(大学案内)2022 p.18

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学幼児教育学科における「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」は、本学公式ウェブサイトや学生募集要項、カレッジガイド（大学案内）、カレッジライフに明示しており、各選抜方法に基づいて入学者選考を行っている（資料 2-1-1～4）。以下に示す。

- ①保育者として誠実な人柄と人間力を身に付けるために、子どもや保護者を思いやる心を持ち、協働に向けた努力を惜しまない者
- ②保育者としての高度な専門性と創造力を身に付けるための基礎学力と素養があり、保育について学ぶ姿勢を持ち続けることができる者
- ③保育者として地域社会に貢献する実践力を身に付ける努力を惜しまない者

学生募集に向けてオープンキャンパス等で配布する本学カレッジガイド（大学案内）には、幼児教育学科の魅力として「保育士資格と幼稚園教諭免許だけでなく、社会人としての『生きる力』が身につく」ことを示している。保育実践力の育成としては「本学キャンパスに隣接する附属幼稚園での体験学習」「保育者として必要な基礎技術の修得」「充実したピアノレッスンサポート」を、社会人基礎力の育成としては「コミュニケーション力アップ」「問題解決力・自己管理力の向上」「徹底したマナー指導」を挙げて、幼児教育学科での学びを具体的にわかりやすく説明している（資料 2-1-5）。

入学後は、まず入学直後に学外実習についての総合オリエンテーションを行い、実習に臨む前に「全体事前指導」と「個別事前指導」を、実習を終えた後に「個別事後指導」をきめ細かく行っている。

〔長所・特色〕

本学幼児教育学科の特色としては、附属幼稚園が本学キャンパスに隣接しているのも、1年次での「体験学習」を容易に実現できることが挙げられる。さらに、個別のピアノ練習室が40室以上設置されているので、授業外でも学生が自由にピアノを練習することができる。これらの特色を学生募集にあたっては強調している。

〔取り組み上の課題〕

学生の確保については、高校生人口の減少だけでなく、長崎県外への人口流出も全国的に見て高い水準にあって、定員充足が厳しくなりつつある。本年（令和5年）度は学生定員を1割程度下回る状況だった。今後の学生募集については、いかに短期大学の魅力を高校生及びその保護者へアピールしていくかが課題である。

一方、保育職を目指して入学したはずの学生たちではあるが、実際の実習を体験する中

で挫折してしまう学生も毎年数名いるので、そのような学生を早めに把握して、保育職を断念しないように、本人の意志を尊重しつつ学修支援していくことも重要である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1：長崎女子短期大学公式ウェブサイト
- ・資料 2-1-2：令和 5 年度募集要項 p. 1
- ・資料 2-1-3：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2022 p. 33
- ・資料 2-1-4：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 109
- ・資料 2-1-5：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2022 p. 16

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

[現状説明]

幼児教育学科では、保育士資格と教員免許状の両取得を基本方針としており、入学当初は、1 年生全員がそれに基づいて受講している。

教職に就こうとする意欲や適性の把握については、1 年次 4 月に大学共通の基礎科目「初年次セミナー」で入学の動機等を含めた自己紹介シートを記入させ、さらに、就職活動に関する講義を受けて、自己分析シートの作成や、今後の就職活動への取り組みのレポート作成を通して、学生の就職活動に対する関心・意欲の向上に努めている。また 1 年次 4 月に、職業適性分析を含む「社会人基礎力テスト」を行って、チューターがそれぞれの学生のテスト結果を把握できるようにしている。学生は、チューター面談時にテスト結果を受け取るので、学生自身が教職への適性の有無を確認することができる。キャリア支援は、学生の希望を最優先にして行っている。

より具体的なキャリア支援は、2 年次に進路調査票をキャリア支援センターに提出することから始まる。キャリア支援センターは、各保育施設から届く募集の情報を、随時、学科 2 年生へ向けてメール送信の形式で通知している。キャリア支援センターは、履歴書や自己 PR の書き方の助言指導、あるいは、採用面接試験についての指導、等を個別に積極的に支援している（資料 2-2-1）。

学生には、就職活動の状況や内定決定について、随時、チューター及びキャリア支援センターへその旨報告することを求めている（資料 2-2-2）。2 年次後半になると、就職先内定が次第に出てきて、ほとんどの学生が報告してくれるので、就職内定状況はかなりの確度で把握できていると考えている。

令和 6（2023）年 3 月に卒業した学生 86 名のうち、幼稚園教諭二種免許状の取得者 84 名及び保育士資格の取得者 83 名であり、幼稚園への就職者 1 名（1%）、認定こども園への就職者 32 名（39%）、保育園への就職者 50 名（60%）という結果であった。

〔長所・特色〕

「卒業生による講演会」や「保育施設長による講演会」を開催して、幼稚園や保育園、認定こども園等の現場の話を聴き、学生が保育職に対する職業観や就職活動の方法をより明確にできるように努めている（資料 2-2-3）。また、教育実習期間中に実習園へ訪問して巡回指導する際に、適宜、現場で必要とされている保育者像に関する情報収集を行って、学科会議での検討資料としている。

〔取り組み上の課題〕

2年次後半の早期に就職が内定する学生が出てきて、内定者が増えてくると、就職活動に焦りを感じる学生も出てくる。そうした学生の精神的負担を軽減するためには、きめ細かな対応が求められる。そこで、チューター担当教員の役割が大きくなるが、教職課程担当の専任教員9名がチューターを兼ねているので、その負担増が課題である。キャリア支援センターと学科との間で、個々の学生の就職活動に関する情報共有を行い、キャリア支援のさらなる向上を図りたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2022 pp. 36-37
- ・資料 2-2-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 61
- ・資料 2-2-3：令和5年度長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

長崎女子短期大学の建学の精神は「鶴九臯に鳴きて声天に聞こゆ」にあつて、社会の平和と幸福の増進に寄与し、自立性をもつ現代女性の育成を本学の使命とし、本学学則で、「教育基本法並びに学校教育法の趣旨に従い、高等学校の教育の基礎の上に一般教養と実際の専門教育を授け、建学の精神に基づき、良識と技能を備え、併せて社会や家庭に有為で自立する心を持つ女性の育成を目的とする」としている（資料 3-1-1）。

幼児教育学科では、上記の建学の精神と教育理念に基づき、豊かな人間性と思いやりの心を持ち、社会の平和と幸福に寄与する自立した保育者の養成を教育研究上の目的として、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得が可能である（資料 3-1-2）。

教職課程カリキュラムは、以下の項目を「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」として編成している（資料 3-1-3）。

- ①教科に関する科目：保育の 5 領域に関する基礎的素養を養う科目
- ②保育職の意義：保育者の在り方・職業倫理を考える力を養う科目
- ③保育の基礎理論：教育・心理・福祉の基礎理論を学ぶとともに、自らの保育観を見つめ直す科目
- ④教育・保育課程及び指導法：子ども理解に基づいた保育計画の立案・実践・自己評価を行う上での基礎力を養う科目
- ⑤学外実習：真摯に子どもと関わる中で、保育者として求められる知識・技能を確認するとともに、多様な保育者との関わりの中で自らの保育観を見つめ直す科目

シラバスでは、教育課程におけるすべての科目で授業の目的、到達目標、内容、授業計画、成績評価方法・基準等を明確に示しており、本学公式ウェブサイトで公開している（資料 3-1-4）。

〔長所・特色〕

幼児教育学科の教職課程では、領域に関する専門的事項である「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」に関する授業科目、保育内容の指導法に関する科目である「保育内容総論」、基礎的理解に関する科目である「教育原理（教育史を含む）」「発達心理学」「特別な教育的ニーズの理解とその支援」を卒業必修とすることで、教職課程としての性格を明確にしている。

「表現」領域の科目としては、「子どもと音楽表現」と「子どもと造形表現（基礎）」の 2 つに分けて開講し、さらに「保育と音楽表現」「子どもの歌と伴奏法」や「子どもと造形表現（応用）」「子どもの絵と製作」を開講することで、「表現」領域の知識・技能の教育を充

実させている（資料 3-1-5）。

〔取り組み上の課題〕

領域に関する専門的事項に関する授業科目の中、「人間関係」を除く「健康」「環境」「言葉」「表現」に関する授業科目を 1 年前期に開講し、1 年後期に各指導法の授業科目を開講しているが、学生にとって、各領域の講義の前に演習主体の指導法を学ぶほうがより理解を深められるということもあり得るので、今後の課題としたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3-1-1：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 9, p. 105
- ・資料 3-1-2：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 9
- ・資料 3-1-3：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 109
- ・資料 3-1-4：長崎女子短期大学公式ウェブサイト
- ・資料 3-1-5：長崎女子短期大学カレッジライフ 2023 p. 40

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

DP に、「保育者として求められる知識や技能を修得すること」「保育者として、主体的に保育を計画し、自立した保育実践を行うこと」「保育者として、保育職の意義を理解し、地域の子育て支援に貢献すること」等を掲げて、保育実践力を育成するための授業科目を開講し、最後に「保育・教職実践演習」を配置して、卒業時には幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の両方を無理なく取得できるように、カリキュラムを編成している（資料 3-2-1）。

教育実習では、学生全体への事前指導だけでなく、さらに個別に事前指導を行って、できるかぎり安心して実習に臨めるように配慮している。実習期間中は、学科教員が分担して実習園へ訪問して巡回指導を行い、実習中の学生の状況を把握する一方、実習園との意思疎通を図るようにしている。巡回指導後は、指導報告書を作成し、実習終了後には個別に事後指導を行って、教育実習の成果が学生にとってより充実したものになるように努めている（資料 3-2-2）。

〔長所・特色〕

学生の実践力を育成するために、40 台以上のピアノ個室、自然遊び室、音楽遊び室、図画工作室等を備えており、さらに、隣接する附属幼稚園での「体験学習」を通して、保育実践力をより高められるように工夫している（資料 3-2-3）。また、2 年間を通して、「保育施設長による講演会」を複数回開催することによって、幼稚園や保育園、認定こども園等の現場の話を聴き、具体的な保育実践力を知る機会を提供してきている（資料 3-2-2）。

[取り組み上の課題]

本年（令和5年）度は、附属幼稚園での体験学習をある程度活用することができたが、十分とは言い難いところがある。今後、附属幼稚園との連携をより密にして、学生の保育実践力を高めていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：長崎女子短期大学カレッジライフ2023 pp.40-41, p.109
- ・資料3-2-2：令和5年度長崎女子短期大学幼児教育学科専門教育科目シラバス
- ・資料3-2-3：長崎女子短期大学カレッジガイド（大学案内）2022 pp.16-19

Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

「基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、建学の精神を基に定められた学科 DP で教職課程における保育者像が示されており、教職課程に関わる教職員の共通理解が図られていると思われる。教職課程の目的・目標についても、成績評価にルーブリックを取り入れたことで、学科教員及び関係職員におおむね共有されていると考えている。

教育実習に関する学生指導は、実習の事前指導・事後指導を含めて、教職課程担当教員全員が分担して関わっているため、実習先からの要望・助言等を実習の改善に早めに反映させることができている。学生生活の支援については、少人数編成の担任制度であるチューター制度によって、ある程度細かい支援ができていると自負するが、教職課程担当の専任教員 9 名だけでは指導が難しくなっており、何らかの手立てを講じる必要がある。

「基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援」においては、本年（令和 5 年）度は学生定員を 1 割程度下回り、高校生人口の減少、長崎県外への人口流出によって、定員充足がしだいに厳しくなっている。今後の学生募集については、いかに短期大学の魅力を高校生及びその保護者へアピールしていくかが課題である。就職については、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得して卒業し、主に長崎県内の保育施設へ就職している。求人は学生定員以上に多くあるので、保育施設の要望に応える意味でも学生定員の充足が重要な課題である。一方、保育職を断念する学生が毎年数名いるので、そのような学生へのキャリア支援も重要になっている。

「基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム」においては、5 領域の専門的事項に関する授業科目、保育内容の指導法に関する授業科目、基礎的理解に関する授業科目を卒業必修とすることによって、教職課程としての学科の性格を明確にし、「表現」領域の科目は音楽表現と造形表現の 2 つに分けて「表現」領域の知識・技能の教育を充実させている。特に 5 領域の授業科目については、講義の前に演習主体の授業を組むことによって、学生の学びの意欲が高まって理解がより深まることが期待されるので、今後の課題としたい。

Ⅳ 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

報告書の作成及び公表に向けて、以下のように作業を進めた。

令和 4 年度教職課程自己点検・評価報告書の作成に倣って、令和 7 年 5 月以降、教職課程委員会のワーキンググループで素案作成を進めた。令和 7 年 10 月、教職課程委員会で素案を検討し、必要な修正を行った上で、原案として了承した。同年 11 月、報告書案として本学運営委員会に提出し、承認を得た後、教職課程自己点検・評価報告書として本学公式ウェブサイトで公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

法人名	学校法人鶴鳴学園				
大学・学部名	長崎女子短期大学				
学科・コース名（必要な場合）	幼児教育学科				
1. 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業者数	86名				
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）	83名				
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）	84名				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用+臨時的任用の合計数）	幼稚園教諭1名 保育教諭32名				
⑤ ④のうち、正規採用者数	幼稚園教諭1名 保育教諭32名				
⑥ ④のうち、臨時的任用者数	幼稚園教諭0名 保育教諭0名				
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（特別専任教授）
教員数	1名	2名	6名	0名	3名
相談員・支援員など専門職員数 1名					